

教育目標	自立と社会参加を目指し、一人一人の個性や教育的ニーズに応じた教育により、社会の中で主体的に生きることができる健やかで心豊かな児童生徒を育成する。
指導方針	「チームなとく」として、一人一人の実態を的確に把握し、愛情をもって指導する。
目指す学校像	児童生徒がもてる力を高めて生き生きと活動できる学校
生活目標	明るく つよく 美しく
重点目標	①一人一人に応じた指導の充実(児童生徒の主体的な取組を大切にした授業づくりのための校内組織の活性化、)(家庭との連携を密にした生活力を高める指導の工夫)(ICT(情報通信技術)を活用した授業実践の工夫) ②安心・安全な学校環境の整備と充実(ICTを活用した安全対策の工夫)(コロナ終息に合わせた教育活動の検討)(実践的な防災安全教育と職員研修の充実)(ヒヤリハット事例等の共有による危機管理意識の維持・向上) ③保護者等、地域との連携の充実(ICTを活用した適時適切な情報発信)(適切な情報交換による共通理解の促進)(コロナ終息に合わせた地域との連携の検討)

1 分掌部・各学部・委員会の目標及び評価

重点目標	担当部署等	重点目標を達成するための目標 (評価項目)	評価の観点(具体策)	総合評価	成 果	課題と改善策
・・・・人 I 家庭人 C 児童人 T と生徒 への生徒 情連のじ 報携主た 通を体指 信密の導 技になの 術し取充 めた組実 を生を 活活大 用力切し をにた高し 授めた業 る授業 実践導づ ののく工 工夫のた め の校内組 織の活 性 化	中 学 部	・生徒の興味・関心の幅を広げ、個に応じた指導を行うために、ICTに関する活用の工夫を情報共有し、ICTを活用した授業実践を行う。	・ICTを活用した授業の工夫の情報共有、データ共有する機会を設け、中学部職員全員が情報を共有することができたか。 ・ICTに関する情報共有を教員間で積極的に行い、授業実践に生かすことができたか。 ・様々なICTの情報(使いやすいアプリや音声ペン、おにぎりVOCA、ドロッブークなど)を共有して指導や学習に生かすことができたか。	A	・中学部会の際にICTに関する情報を学年ごとに発表して、情報共有する機会を設け、授業の工夫やデータを共有することができた。 ・アプリの情報も積極的に共有することができた。 ・音声ペンやおにぎりVOCAなどICTの機器の情報も共有し、日々の学習に活用できたところもあった。	・データの共有として分かりやすいフォルダを作成し、すぐに探せるとよい。 ・タブレット端末のアプリが限られてしまっているが、使いやすいアプリの情報発信して共有していく。 ・教員が誰でもICTを活用し授業実践できるように、日々情報を発信しサポートしあえるとよい。
	高 等 部	・生徒の主体的な取組を大切に授業づくりに向けて、組織を活用したり教師間で連携したりすることにより、組織の活性化を図る。	・組織の活性化を図ることができたか。 ①教科等連携の活用や校内研究班の活用(組織活用) ②互いの専門性を生かす取組(教師間の連携) 上記①②の両方、またはどちらかの取組により、生徒の主体的な取組を大切に授業の充実を図ることができたか。	B	・教科等連携では、各教科等の中で高等部3年間で取り扱う内容についての系統性や関連性についての議論が深まり、年間指導計画や今後の指導法の構築に生かされた。 ・進路指導・社会福祉制度・知能検査・発達検査・性教育の指導法など、個人の専門性を生かしたプチ研修に多くの職員が参加し、新しい知見を得たり、専門的スキルを向上させたりしようとする意識が高まった。 ・校内研究では、実践を通して協議を行い、主体的に取り組むための手立てについて考えることができた。	・それぞれの取組が組織の活性化につながったかどうか、評価項目が具体的なイメージにつながりにくかったことが課題である。 ・改善策としては、「どのような状況になれば組織の活性化がなされたか」など、もう少しイメージで使いやすい評価項目を設定することや、職員間で「連携」や「組織活用」などを意識しながら教育活動を進めていくことが挙げられる。
	訪問教育学級	・ZOOMを授業で活用し、なす療育園の集団学習に各家庭児童生徒が参加する機会を確保し、つながりを重視した授業実践を進める。 ・移動が難しい児童生徒の学習経験拡大につながる新たな取組について検討し、活動の充実につなげることができる。	・日常的に使用機会を設け、友達や教師とのつながりを意識した授業を実践することができたか。 ・実施後の振り返りや授業研究会を通して、ICT機器を効果的に活用した授業実践を蓄積することができたか。 ・スクーリング、校外学習、行事等でのICT機器活用を検討し、実践できたか。	B	・なす療育園教室と居生をつないだ授業実践や、芸術鑑賞会の様子をなす療育園に配信する試み、始業式、終業式の様子を各家庭で視聴するなど、活動全体でICT機器の活用がすすんでいる。 ・一人一台端末使用により、教材の共有化が図られた。 ・行事等では人的要因からICT機器の活用につなげることが難しく、事前学習や事後学習、居住他校交流での活用にとどまっている。	・ZOOMでの対応が難しいケースはYouTube配信を活用するなど、より情報部との連携を密にして取組を進める必要がある。 ・授業内でのICT機器活用はまだ取りかかり段階であり、引き続き授業実践の蓄積が必要である。 ・修学旅行や校外学習に参加できない児童生徒に向けた効果的なICT機器の活用案(VR等の活用を含めた体験的学習の実践)について、引き続き検討していく。
	情報部	・機材の適切な配付と運用管理を進めるとともに、有効な活用方法の提示・共有と紹介を通してGIGAタブレット端末一人1台の学習環境を整備する。	・アカウントと端末の台帳管理を進め、タブレット端末の一人一配付と管理体制を整備できたか。 ・利用上生じたトラブルへの対応や児童生徒の実態に応じたアプリのインストールなど、ニーズに応じた運用のサポートを実施できたか。 ・学習アプリ等の教材や授業実践事例等を校内から広く収集・整理して情報提供することができたか。	B	・児童生徒一人につき一台のタブレット端末と利用のためのアカウントを付与し、利用体制を整えた。端末とアカウント情報を端末管理台帳を作成して集約し、管理体制を整備することができた。 ・機材の設定やトラブル、故障対応に際して、ICT支援員とも連携しながら先生方のニーズに応じて適切に対応することを心掛けた。 ・情報部として、授業での活用を意図した周辺機器との接続方法やアプリの紹介を職員会議等で提供したが、校内の情報集約やそれらを含めて幅広く活用を呼び掛けるという点はまだ不十分である。	・タブレット端末の活用を推進するための有効な学習アプリの紹介、児童生徒が個々の端末を操作する一人1台の環境を生かした授業における活用事例など、部内のみならず校内外に目を向けて収集と集約を図り、先生方に提供していく体制づくりを進めていくことが今後の課題である。 ・端末の管理・運用に関して、今後の利用機会の増加を踏まえ、故障やトラブルへの対応についてよりスピーディーかつきめ細かい対応を行っていく必要があると思われる。ICT支援員等との連携を含めて管理・運用に関する組織的な体制を構築していきたい。
	学習指導部	・家庭と連携して生活力を高めるための指導の充実に向けて、日々の取組を見直し上で実践を行う。	・家庭と連携して取り組む強化週間を設定し、指導の充実や定着を図ることができたか。 ・学習指導要領にある目標や内容を踏まえて、実態に合わせた指導の在り方を工夫することができたか。 ・生活訓練棟を活用して、生活力を高めるための指導の充実を図ることができたか。	B	・園休みにホームワーク週間を設定し、できるようにしたことや家庭でも取り組んでほしいことをお知らせするとともに家庭での実践を行っていただくことができた。また、中学部では、R6に向けて3観点での年計の見直しが終了し、高等部でも来年度には見直しが終了する見込みとなった。また、単元指導計画の様式を変更するなどして、指導の工夫に取り組んだ。コロナの5類への移行により、なとくスクールハウスを活用し宿泊学習等を行うことができた。	・生活力を高めるための家庭との連携は、引き続き方法などを工夫してけるとよい。 ・12年を通して系統立てて学ぶことができるよう学校全体を通した年間指導計画の調整や単元指導計画の作成が必要ではないかと思われる。今後は、単元指導計画の充実と活用、12年間を見渡しての学習内容の調整を進めていきたい。
進路指導部	・学習で(「キャリア教育全体計画」)の「キャリア教育の目標」を意識した学習指導の充実を目指す。	・「キャリア教育」を意識できるような研修の実施ができたか。 ・各学部で、「キャリア教育」に関する学習を動画や写真資料の蓄積を行い、情報交換や授業などで活用することができたか。	B	・長期休業中に教員対象のキャリア教育について研修を実施することができた。 ・キャリア教育に関係する情報交換をMicrosoft Teamsや回覧等を活用した。進路希望調査等のアンケートの結果などは、ホームページを活用することができた。	・研修以外でも、キャリア教育について教材や資料について意見交換をする方法について検討する。 ・学部間での情報交換が進路指導部内で留まってしまうことが多かったことから、キャリア教育等に係る資料や記録の方法について検討したい。 ・学部のニーズに応じた情報を提供できるようにしたい。	

重点目標	担当部等	重点目標を達成するための目標 (評価項目)	評価の観点(具体策)	総合評価	成 果	課題と改善策
（２）安心・安全な学校環境の整備と充実に努める ・ハラスメント防止活動に活用 ・安全な学校環境の整備と充実に努める ・危機管理意識の維持・向上	教務部	・係ごとに行事の見直しを行い、コロナ終息に合わせた教育活動の充実を目指す。	・儀式(始業式・終業式)の実施計画を見直し、体育館に参集しての式と動画配信視聴の式を組み合わせ、より充実した式を実施することができたか。 ・儀式(卒業式・入学式)の実施計画を見直し、児童生徒の活動(在校生の参加・「送辞」「答辞」「歌唱」の実施など)を充実させることができたか。 ・研修の持ち方(研修内容、参加人数、研修場所等)を検討し充実した夏季休業中の研修を実施し、研修した内容を児童生徒の指導に生かすことができたか。 ・長期休業中の家庭訪問について検討し、よりよい実施ができたか。	A	・始業式と終業式は、情報部と連携して参集と動画配信の式を組合わせた形で計画し、児童生徒は落ち着いた環境で式に参加することができた。 ・儀式(卒業式)は、在校生も参加する形で計画を立てたが、下校時刻が問題となり「送辞」「答辞」など児童生徒の活動を充実させることが難しくなってしまった。 ・夏季休業中の研修は、関係部署との連携を図って研修の持ち方を十分に検討して、充実した研修を実施することができた。 ・家庭訪問については、目的を再確認し、保護者懇談を充実させたり、GoogleMap等を活用したりすることで対応できる場合は、原則実施しないことにした。	・始業式と終業式は、来年度も継続して見直し案で実施する。 ・令和5年度の卒業式は、「送辞」については、在校生からのメッセージを廊下等に掲示することで対応する。また、令和6年度の卒業式は、在校生の下校時刻を11:30から14:25(一斉下校)にし、児童生徒の活動を充実させていく。また、来賓の参加等についても検討していく。
	生徒指導部	・児童生徒や教職員が安心して活動できる学校にするために、危機管理マニュアルを整理するとともに、ICTを活用した安否確認システム等を取り入れた実践的な防災訓練を実施する。	・危機管理マニュアル、消防計画の整理ができたか。 ・児童生徒が主体的に取り組める学習や実践的な訓練を行うことができたか。 ・ICT(安否確認システム)を活用した訓練において、教師や保護者等が混乱なく実施することができたか。また、今後の課題を見つけることができたか。 ・本校教職員のニーズが高い内容を研修として取り上げ、教員一人一人の防災意識を高めることができたか。	B	・県の様式に合わせて危機管理マニュアルを見直した。消防計画についても危機管理マニュアルとの整合性をもたせて作成することができた。 ・様々な場面を想定し、教職員それぞれが児童生徒の安全を守るために実践的に取り組める防災訓練を実施することができた。また、児童生徒の防災意識を高めることができた。	・社会状況に応じて危機の在り方も刻々と変化している。それらに柔軟に対応し、情報をアップデートしながら実践的な避難訓練を企画する必要がある。 ・安否確認システムに未回答の保護者等がいたため、年度開始時と引き渡し訓練前に周知をしていく必要がある。 ・危機管理マニュアルについては、職員研修で取り上げるなどして常に見直しを図り、より実践的なものになるようブラッシュアップしていく必要がある。
	健康指導部	・児童生徒、教職員が円滑に以前の学校生活にもどれるようコロナ対応を見直し、分かりやすく提示することでスムーズな学校生活の運営を図る。	・コロナの対応について、保護者等、教職員に周知することができたか。 ・整理したコロナ対応以外の問い合わせに対しても速やかに対応することができたか。	B	・5月にコロナ対応の変化に合わせて具体的な対応をまとめ、職員、保護者等に、掲示板や一斉メールで周知することができた。 ・判断が迷う問い合わせについても、一つ一つ確認して答えることができた。コロナや季節性インフルエンザに感染した場合、いつからいつまでが出席停止になるのかという問い合わせが多かった。児童生徒一人一人について担任と確認しながら、保健室で出席停止期間を記録するようにした。	・コロナが落ち着いた後に、季節性インフルエンザが流行した。うがいや手洗い等対応を呼びかけていたが、感染者が増加した。今後は呼びかけを多くしていきたい。
	寮務部	・舎生が安心して生活できる環境(居場所)づくりと、実践的な防災・防犯安全教育を行う。	・コロナの終息により大人数の宿泊となったため、より実践的な災害訓練を実施し、舎生の防災・防犯意識を高め、自分で身を守る行動がとれるよう支援することができたか。	B	・安全教育講話を実施するとともに、より実践的な防災訓練として、毎月、ショート訓練(避難態勢をとる訓練)を実施し、場所や時間帯を変え様々なパターンで行った。その場所なりの避難態勢の取り方を支援することで、回を重ねるごとに、それぞれの舎生が自ら行動する様子が見られ、防災に対する意識の高まりを感じられた。	・今後もショート訓練を継続し、事前告知なしの回数を増やしてより実践的にしていく。
	推進委員会	・超過勤務となる原因の把握とそれに基づく業務改善を行う。	・聞き取りによる超過勤務の原因の把握と関係部署との共有ができたか。 ・超過勤務の原因となる業務の分担や再構築を行うことができたか。 ・各部、係において業務の平準化を図ることができたか。 ・コロナ対応により変更していた行事等の今後のあり方について、様々な観点から十分に検討することができたか。	B	・超過勤務の状況を主事や部長と共有することができた。今年度は主事及び部長が各部の働き方改革への取組の目標を立案した。中間報告では各部が平準化に向け意識改革を行ったり、業務の効率化に取り組んだりすることができていた。 ・アフターコロナの行事のもち方については行事の目標と効果の観点から現在見直しを続けている。 ・文部科学省からの「教師を取り巻く環境整備について緊急に取り組むべき施策(提言)」を受け、校内の授業の実施状況について確認し、適切な授業時数の設定に向け調整を行っている。	・働き方改革も5年目を迎え、新たな取組を見つけて取り組むことが難しくなっている。このため、5年間の間に行った取組をしっかりと継続していくことも重要である。また働き方改革の目的は「教員が心身ともに健康で、いきいきとやりがいをもちながら、本来的な業務にしっかりと取り組むことができる環境を整備することにより、本県における教育の質の更なる向上を図る」ことであるから、働き方改革の成果を児童生徒の教育に生かしていくことが重要である。業務の削減は困難ではあるが、本来の目的を意識し、今年度の取組と次年度の計画を進めていく。
	危機管理委員会	・ヒヤリハット事案発生時の検証を行い、その傾向と対策を全職員で共通理解し、危機管理意識の向上を図る。	・ヒヤリハットを積極的に取り上げ、発生時の検証を十分に行い、傾向と対策を全職員で共通理解することができたか。 ・学部や学年で対応策や改善策を検討し、より良い対応に結びつけることができたか。 ・危機管理意識が向上し、重大事故を未然に防ぐことを心掛けて児童生徒指導に取り組むことができたか。	B	・事例の大きさにかかわらず、積極的に事例を全体で確認することができた。 ・毎月、学校日誌や掲示板を活用してヒヤリハットの発件数や本校の傾向及び対策を周知し、全職員で情報を共有し、再発防止に向けて意識を高めることができた。	・ヒヤリハットの情報の受け取りが個人対応だったので、職員会議で数事例を挙げるなど、全体の場で啓発を促す取り組みが必要である。 ・今後も危機管理に関する校内研修や訓練を実施し、教職員一人一人の危機管理意識を高めていく。
	対い策員防会止	・いじめにより大切な命が失われることがないよう、教育相談を充実させ、全職員、保護者等、関係機関職員との綿密な連携を図れるような実践を行う。	・いじめをはじめとする問題行動や不登校等の未然防止、早期発見、早期対応に向けた家庭、地域社会、外部専門家、関係機関及び異校種等と連携、協働した取組の充実を図ることができたか。 ・児童生徒が安心して学び、生活できる環境づくり及び危機管理体制の強化を進めることができたか。 ・教育相談のスキルを向上することができたか。	A	・いじめを積極的に認知し、いじめを受けた児童生徒の気持ちに寄り添い、スピード感のある対応を心がけた。いじめ問題に関して、きめ細やかな対応を心がけることができた。	・いじめ対策に関する具体的な取組の周知や啓発を保護者に対して行い、この評価を維持していくことが必要である。 ・いじめ関連の法律についての理解を図ることや、個々のいじめケースを職員間で共通理解することを引き続き行っていく。

+ ・ ・ ・ 保護者等と地域との連携の充実に努めること ・適切な情報交換と相互理解の促進 ・地域の活性化と発展に貢献 ・地域の課題の解決と改善 ・地域の安全と安心の確保 ・地域の文化の継承と発展 ・地域の環境の整備と保全 ・地域の防災・減災の取り組み ・地域の国際化とグローバル化への対応 ・地域のデジタル化への対応 ・地域の持続可能な発展への取り組み ・地域の未来への展望とビジョンの共有 ・地域の課題の解決と改善 ・地域の安全と安心の確保 ・地域の文化の継承と発展 ・地域の環境の整備と保全 ・地域の防災・減災の取り組み ・地域の国際化とグローバル化への対応 ・地域のデジタル化への対応 ・地域の持続可能な発展への取り組み ・地域の未来への展望とビジョンの共有	担当 部等	重点目標を達成するための目標 (評価項目)	評価の観点(具体策)	総合評価	成 果	課題と改善策
	小学部	・小学部の授業や児童の学習の様子を保護者等に情報提供する機会を増やすことで、家庭との連携をより密にし、共通理解を促進する。	・ホームページを活用し、校外学習などの行事以外の各学年、重複障害学級の授業や児童の学習の様子を掲載し、情報の発信ができたか。 ・保護者等懇談の際に、教材や写真などを提示するなどの工夫をして学習の様子を丁寧に説明することができたか。	A	・毎月担当学年を決めて、ホームページに授業の様子を掲載した。各学年年間で3回の授業の様子と、校外学習等の行事の様子を情報として発信することができた。しかし、本校のホームページのトップページから、「小学部」のページを開いて掲載した情報を確認するという流れを知らなかった保護者等もいらしたようであり、保護者等へのホームページの見方などの周知が必要であった。 ・保護者等懇談の際には、それぞれの担当が工夫をしながら学習の様子を保護者等と共有することができた。	・ホームページの見方については、授業参観時の学部懇談会で保護者等の方々に説明し周知をする。欠席された方にもプリントで周知を行う。次年度以降もホームページの見方については、必要に応じて周知をしていくことが大切であると思う。 ・学習の様子をいろいろな方法で保護者等と共有し、同じ思いで児童の成長を促していけるように今後も努めていきたい。
	特別活動部	・社会状況に応じた行事の立案・実践を行い、その内容を校外に適切に情報発信することにより、保護者等だけでなく地域に対して本校の教育活動の啓発を行う。	・社会状況を踏まえながら、集団での行事を想定した実施計画の作成と実践をすることができたか。 ・他校務分掌と連携を取り、校外に対してホームページや広報誌で適切な情報発信を行うことができたか。	B	・新型コロナウイルス感染症が5類移行になったことで、全校集会やなとくフェスティバルの実施方法について検討し、昨年度よりも大きな集団で行事を実施することができた。 ・地域支援部と連携を図り、地域だよりにJRC活動の記事を掲載することができた。また、行事ごとにホームページを更新することができた。	・今年度の反省を踏まえた上で、出来る限り集団を想定した行事の計画を検討していく。なとくフェスティバルについては、保護者等だけでなく、同窓生や福祉施設の参加を計画し、PTAや同窓生と親の会のバザーなども実施する予定である。 ・地域だよりについては、次年度以降もJRC活動の記事掲載を依頼し、地域支援部と連携していく。ホームページについては、記事を更新するだけでなく、保護者等に見てもらえるような広報の工夫も検討していく。
	地域支援部	・社会の状況に応じた関係諸機関との情報交換や、地域への適切な情報発信と、相互理解を深める事業を展開することにより、本校についての理解や地域との連携を深める。	・地域だよりやホームページ、リーフレットなどで本校の実践を適切に情報発信することができたか。 ・コロナ5類移行後の社会状況に応じた情報交換を関係機関と行い、事業を計画、実施できたか。	B	・各事業の実施にあたっての案内や、実施後の報告などについて、地域だよりやホームページ、リーフレットなどによる情報発信に努めることができた。 ・各関係機関との情報交換や協議などにより、地域のニーズに応じた事業を計画、実施することができた。大山地区コミュニティまつりには、4年ぶりに高等部音楽部生徒が参加し、学習発表(歌唱)を行った。また、大山ふれ愛・花いっぱい事業交流も実施した。	・各事業の実施にあたっては、コロナ禍以前の形態にとらわれず、各関係機関との情報交換や協議などにより、地域のニーズに応じた事業を計画、実施していきたい。
	渉外部	・PTA活動の充実と会員及び地域等への情報発信を行う。	・支部会、専門委員会、学年会、茶話会等を通して、会員同士のコミュニケーションを図ったり、広く会員の意見を吸い上げたりすることができたか。 ・会員の意見を取り入れて各活動を行うことができたか。 ・実施したPTA活動について、PTA新聞だけでなく学校のホームページにも記事を掲載することができたか。	B	・PTA研修旅行の実施をはじめ、PTA奉仕活動を2回実施するなど、コロナ終息にあわせて活動の充実を図ることができた。 ・PTA研修旅行の先行や研修会の内容、図書委員会の活動時期等、保護者等の意見を取り入れて活動することができた。 ・支部会や専門委員会の活動後、ホームページに記事を掲載することができた。	・今年度と同様、保護者等の意見を取り入れ、連携を図りながら活動の充実にも努めていく。 ・ホームページへの掲載場所が統一されていなかった。掲載方法も含め、年度当初に係職員へ周知する。

＜学校関係者評価＞ ①一人一人に応じた指導の充実 ・児童生徒一人につき一台のタブレット端末と利用のためのアカウントを付与し、利用体制を整えたことは、ICTを活用した授業実践の目標に合致し、成果に結びついていると感じる。社会全体としてデジタル化がますます進むので、社会に出たときに対応できるよう支援をお願いしたい。 ②安心・安全な学校環境の整備と充実 ・定期的に避難体制をとる訓練を実施し、より実践的な防災訓練を行っているのは非常に危機回避意識が高くて素晴らしいことだと思う。学校評価保護者等アンケートの防災に対する項目において、評価がとて高く、いつ起こるか分からない大規模災害に対し、平時から備えられていることが良いと感じる。 ③保護者等、地域との連携の充実 ・新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことで、学校間交流、居住地校交流、地域交流(大山コミュニティまつり、大山ふれ愛・花いっぱい事業交流)などを再開することができてよかった。また、卒業後の地域との連携が重要であると考えらる。
＜評価結果に基づく今後の改善方策等＞ ①一人一人に応じた指導の充実 ・家庭と連携して生活力を高める指導の取組を継続し、より一層の充実を図るとともに、指導計画の見直しを行い、小学部、中学部、高等部の系統立てた学習内容の調整を進めていく。 ・児童生徒一人一人がタブレット端末を効果的に活用できるよう、授業実践の工夫を更に進めていく。 ②安心・安全な学校環境の整備と充実 ・今年度は危機管理マニュアルの大規模な見直しを行ったので、これらを活用した実践的な防災安全教育と職員研修の充実を図り、安全安心な学校環境の整備に向け取組を充実させる。 ③保護者等、地域との連携の充実 ・コロナ終息に合わせた地域の連携について検討したことを踏まえ、より一層地域と連携した活動の充実及び啓発活動の推進をする。